

特別企画：フィットネスクラブ経営業者の実態調査

フィットネスクラブの収入高、7年連続増

～ 新興企業で増収目立つ ～

はじめに

スポーツの秋到来。近年ではゴルフや野球などのほか、ヨガやボルダリングなど屋内でも楽しみ、かつ初期費用が少額で気軽に参加できるスポーツが人気を集めている。経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」によると、フィットネスクラブの会員数は年々増加傾向で推移しており、2017年は前年比3.1%増の336万3669人と3年連続で前年を上回った。

背景には、高齢会員の増加や健康志向の高まり、東京五輪に向けたスポーツへの関心増加などがあり、24時間営業の店舗や女性専用店舗、パーソナルトレーニングなど、サービスの多様化が進んでいる。

帝国データバンクは、2018年9月時点の企業概要データベース「COSMOS2」（約147万社収録）に収録されているフィットネスクラブの経営を主業とする747社を抽出・集計・分析した。

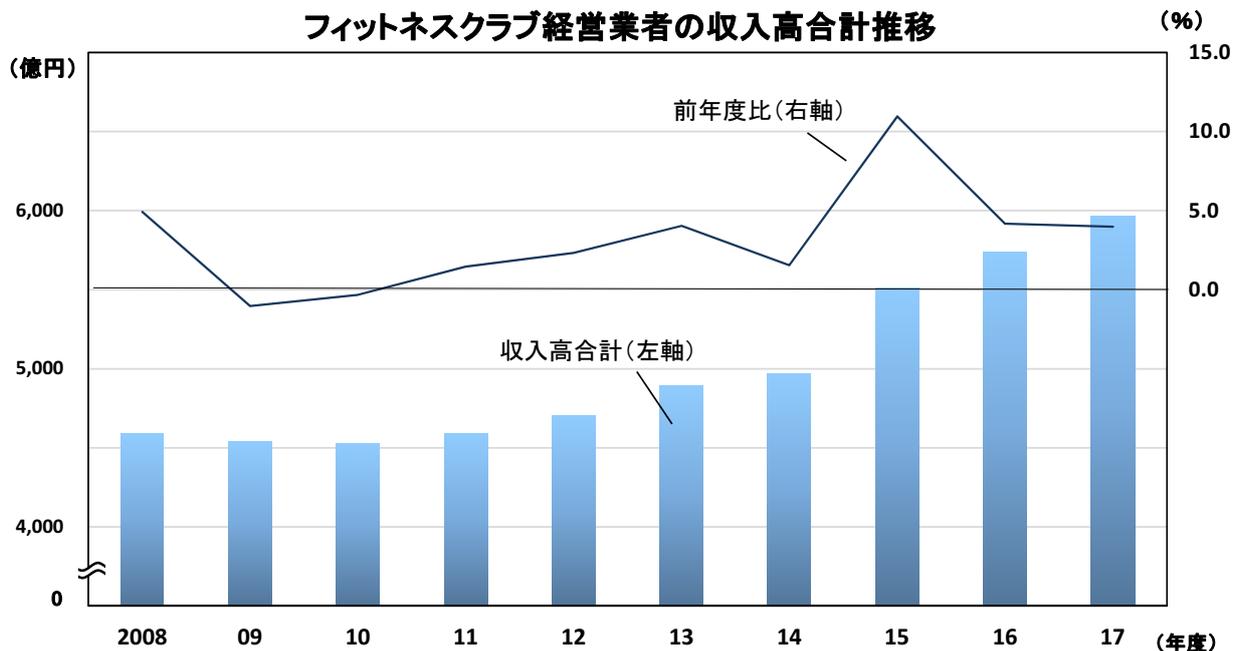
同様の調査は今回が初めて。

調査結果（要旨）

1. フィットネスクラブの経営を主業とする企業の2017年度の収入高合計は、前年度を4.0%上回る **5968億300万円**と、**過去10年で最高を記録**した
2. 2017年度の収入高動向を年商規模別にみると、増収の構成比は「50億円以上」が75.0%を占め最高となった。全ての年商規模で増収の構成比が減収の構成比よりも高くなり、年商規模の大小にかかわらず業績好調な企業が多かった
3. 業歴別にみると、増収の構成比が最も高かったのはRIZAP(株)や(株)フジ・スポーツ&フィットネスなどが含まれる「**10年未満**」(40.7%)で、唯一4割を超えた

1. 収入高合計推移

フィットネスクラブの経営を主業とする企業の2017年度の収入高合計は前年度を4.0%上回る5968億300万円となった。過去10年間における収入高合計の推移を見ると、2009年度(4542億3800万円、前年度比1.0%減)以降は2年連続で前年度を下回ったものの、2011年度(4593億2500万円、同1.5%増)以降は7年連続で前年度比増加が続いている。健康志向の高まりで、フィットネスクラブの会員数は増加傾向で推移しており、2017年度は過去10年で最高を記録した。



2. 年商規模別

2017年度の収入高動向を年商規模別にみると、年商規模の大小にかかわらず増収企業が減収企業を上回った。年商規模が上がるほど増収企業の割合は高まり、年商「50億円以上」では増収企業が構成比75.0%を占めた。

年商規模別の業績動向

(社)

年商規模別	社数	増収		横ばい		減収	
		増収	構成比 (%)	横ばい	構成比 (%)	減収	構成比 (%)
1億円未満	301	70	23.3	186	61.8	45	15.0
1億～10億円未満	305	135	44.3	127	41.6	43	14.1
10億～50億円未満	44	25	56.8	7	15.9	12	27.3
50億円以上	20	15	75.0	0	0.0	5	25.0
合計	670	245	36.6	320	47.8	105	15.7

※対象は2017年度の業績比較が可能な企業

3. 業歴別

2017年度の収入高動向を業歴別にみると、増収の構成比が最も高かったのは「10年未満」(40.7%)で唯一4割を超えた。2010年に設立されテレビCMで話題の“結果にコミットする”ジムを手掛けるRIZAP(株)や、中四国でスーパーストアを展開している(株)フジが2013年に設立した(株)フジ・スポーツ&フィットネス、2010年に設立され、低価格型で24時間営業の“エニタイムフィットネスクラブ”を運営する(株)AFJ Projectなど業歴10年未満の新興企業の増収が目立った。

業歴別の業績動向

(社)

業歴別	社数	増収		横ばい		減収	
		増収	構成比 (%)	横ばい	構成比 (%)	減収	構成比 (%)
10年未満	182	74	40.7	91	50.0	17	9.3
10～30年未満	249	95	38.2	117	47.0	37	14.9
30～50年未満	203	67	33.0	92	45.3	44	21.7
50年以上	36	9	25.0	20	55.6	7	19.4
合計	670	245	36.6	320	47.8	105	15.7

※対象は2017年度の業績比較が可能な企業

【主な新興企業】

TDB企業コード	商号	所在地	決算年度	決算月	年収入高 (百万円)	主な店舗名
178000177	RIZAP (株)	東京都	2017	3	25,000	「ライザップ」
123010351	(株) フジ・スポーツ&フィットネス	愛媛県	2017	2	3,336	「フィッタ」
428000829	(株) AFJ Project	東京都	2017	3	2,600	「エニタイムフィットネス」
351003031	アイレクススポーツライフ (株)	愛知県	2017	3	2,454	「アイレクススポーツクラブ」
063018092	b-monster (株)	東京都	2017	3	1,807	「b-monster」

※年収入高は推定値を含む

4. まとめ

調査の結果、健康志向の高まりや2020年の東京五輪などが追い風となり、フィットネスクラブ経営者の2017年度収入高合計は過去10年で最高を記録。年商規模に関わらず増収を果たす企業が多いことが判明した。また収入高合計は7年連続で前年度を上回り、特に、文部科学省の外局としてスポーツ庁が創設された2015年度は、収入高合計が前年度比11.0%と2ケタの大幅増加となった。

各社は、24時間営業の店舗や女性専用ジム、音楽に酔いしれるクラブ感覚でエクササイズができるほか、羞恥心を感じさせない空間を提供する暗闇フィットネスなど、顧客のニーズを汲み取った新たなサービスの展開を加速させている。加えて、高齢化が進む中でシニア層の会員数も増加しており、今後もフィットネスクラブの市場は拡大傾向で推移することが見込まれる。

しかし、スタッフやインストラクター不足の深刻化が懸念されるほか、外資系企業の進出や、2018年2月にはコンビニ大手(株)ファミリーマートのフィットネス事業への参入が発表された。こうしたなか、各社はさらなる成長に向け、スキルを持った従業員確保のための多様な人事制度の導入や、会員数増加に向けた独自サービスの提供などを行い、今まで以上に競争が加速しそうだ。

(内容に関する問い合わせ先)

(株) 帝国データバンク 産業調査部 情報企画課
担当：西本 実生
TEL 03-5775-3073 FAX 03-5775-3169
MAIL miki.nishimoto@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。